

1 消費税が増税されるとどうなるニッポン

社会も地域も生活もメチャクチャに

政府は消費税増税によって「社会保障のための安定的な財源の確保と財政の健全化の両方を成し遂げる」「社会保障制度の持続可能性の確保」といいます。

ところが、過去を振り返ると、1997年の消費税増税(3%→5%)によって、景気が悪化し、かえって税収が

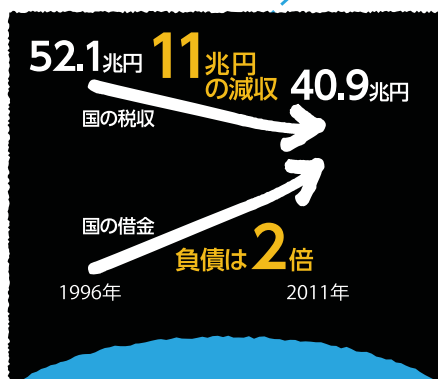
減って政府の借金が増大しました。

さらに消費税負担が5%から8%、そして10%になると「増税→市民・中小企業の負担増→不況→政府の財政危機→さらなる増税」という負のスパイラルに陥ります。これが「持続可能性」と言えるのでしょうか。。

消費税増税による負のスパイラル

さらなる消費税の増税へ

消費税の増税



市民の生活苦

- 生活必需品を買うたびに消費税の負担が増える。

中小企業の倒産・経営難

- 価格に消費税を転嫁できず。
- 元請けからの消費税分の押し付け。
- 滞納の取立て厳しく

政府の財政危機

政府の負債増大

さらなる社会保障の削減

失業率の増加

景気悪化

過去は事実を語る

消費税が3%から5%(1997年)になってから、税収がかえって下がっていききました。政府の負債は2倍に。収入が減って、国民の担税力が弱くなったからです。